

令和6年度 学校評価アンケート結果及び分析と対策について

宮城県富谷高等学校 校長 田淵 龍二

実施時期 令和6年10月25日(金)～11月5日(火)

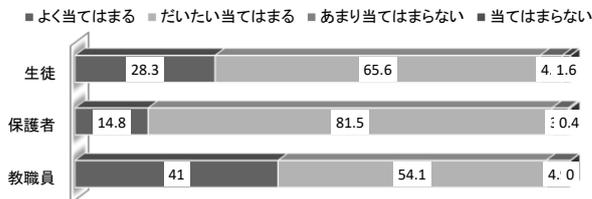
回答状況 生徒 回答数 774名 回答率 99.0%

保護者 回答数 542名 回答率 69.3%

教職員 回答数 61名 回答率 98.4%

回答方法 「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の4段階で評価。

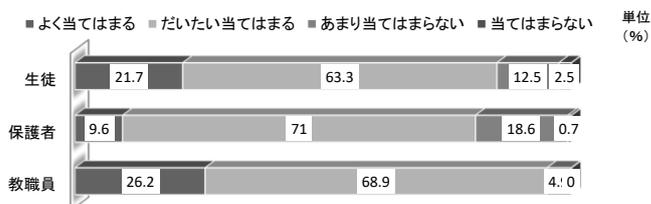
1 学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。(教育課程)



【分析と対策】

今年度は新学習指導要領による教育課程編成の完成年度となりました。生徒・保護者・教職員すべてにおいて9割以上の方から「よく～」「だいたい～」と評価されている点について非常にありがたく感じます。本校のスクールポリシーをさらに浸透させるとともに、生徒をより望ましい姿へと成長させ得る教育課程を編成し、教育実践に結実させられるよう、今後も弛まず研鑽したいと考えます。

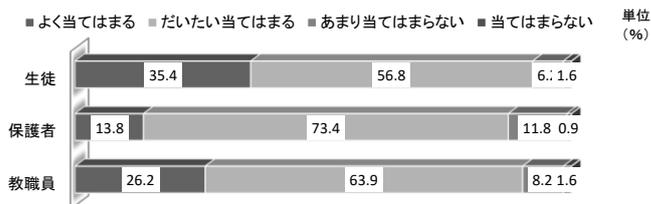
2 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。(学習指導)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員すべてにおいて8割以上の方から「よく～」「だいたい～」という評価をされている一方で、教職員に比べると、生徒や保護者の評価は低くなっています。新学習指導要領において、探究型の学習や個別・最適な学びなど、新たな領域が入ってきていることを教職員は強く意識し、授業改善に取り組んでいることを示しているものと考えられますが、それらをますます生徒や保護者に理解してもらえよう、今後も授業改善の取り組みを継続していきたいと考えています。

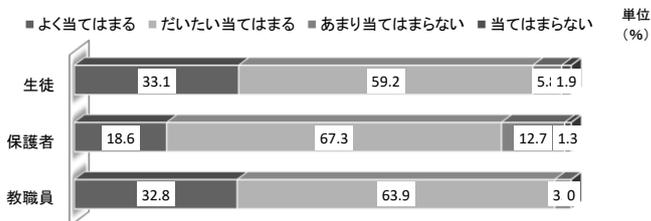
3 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。(生徒指導)



【分析と対策】

生徒・保護者・教職員による「よく～」「だいたい～」の評価の合計は、昨年度の数値と比較してそれぞれ1～3ポイント程度低下したものの、ほぼ9割を超える高い評価を得ていることが分かりました。挨拶指導や基本的なマナーに関する指導については、教職員からの声かけがあれば実行できる生徒が大半を占めています。しかし、生徒自身が自発的に行動を起こす力を育むことが、今後の重要な課題であると考えています。引き続き、生徒会を中心とした挨拶運動などの取り組みを通じて、生徒たちの課題解決に向けた支援を行っていきたくと考えています。

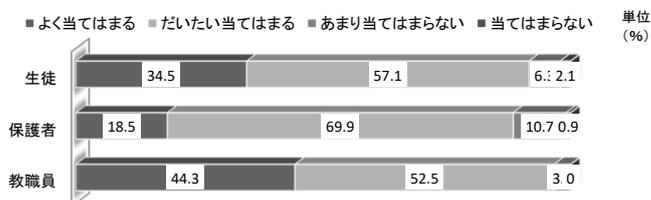
4 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。(進路指導)



【分析と対策】

「よく～」「だいたい～」の値は昨年度とほぼ同じですが、生徒・教職員に比べ、保護者の評価が低くなっています。今年度は令和7年度から始まる新課程入試への切り替えの年でもあり、入試説明会やPTA研修会、年次通信等を通じて、保護者にも現在の入試制度等について理解していただく機会を確保することに努めてきましたが、なお十分ではなかった結果と考えます。2者面談等を通して生徒個別の学習状況や進路希望の把握に平日頃から取り組んでいますので、ご家庭でもその内容を共有し、なおご心配やご不明な点があれば忌憚なくご相談ください。今後も生徒・保護者が共通理解を図れる情報提供のあり方を工夫し、進路目標実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

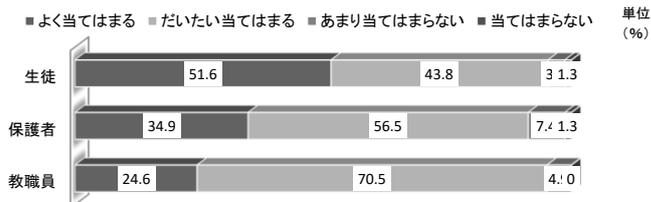
5 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている(教育相談)



【分析と対策】

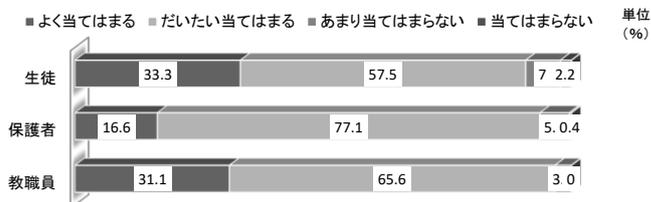
生徒・保護者・教職員のいずれも「よく～」「だいたい～」の値は近年同程度で推移しています。カウンセリングの利用数は例年とはほぼ同様で、利用のきっかけは生徒・保護者の申し出よりも、保健室や担任の先生の働きかけが多い状況です。今後も校内の連携を強めながら、生徒・保護者・教職員がより相談しやすい体制をつくるとともに、生徒や保護者に対するカウンセリングの周知(カウンセラー便り、eメッセージによる連絡等)も引き続き行っていきたくと考えています。

6 学校として、部活動は活発に行われている。(部活動)



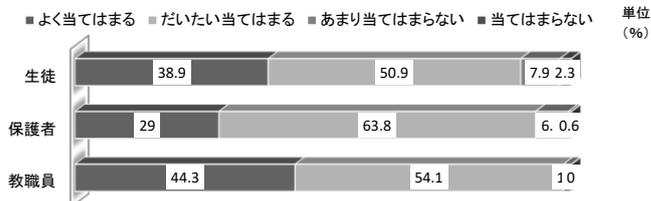
【分析と対策】
 生徒・教職員の評価は「よく〜」「だいたい〜」の合計で95%に達し、非常に高い水準にあります。保護者の評価も90%を超えており、本校の部活動が活発であると評価されています。また、活動実績についても、陸上競技部がインターハイに出場、吹奏楽部がマーチングバンドフェスティバル東北大会に出場するなど、上位大会で一定の成果を挙げています。今後も部活動をより一層盛り上げ、生徒たちの意欲を引き出すとともに、学校全体の活性化につなげる取り組みを進めていきたいと考えています。

7 学校として、生徒会活動は活発に行われている。(生徒会活動)



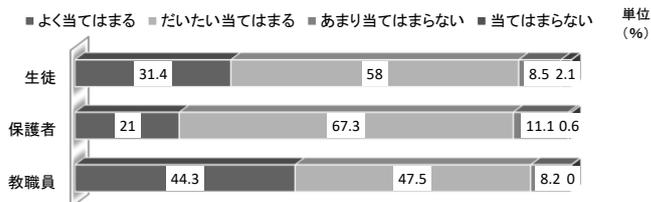
【分析と対策】
 生徒・保護者からの「よく〜」「だいたい〜」の合計評価は90%を超え、教職員からの評価も96.7%に達しています。この高い評価は、日頃の生徒会活動に加え、春の体育大会、秋の樹祭や球技大会など、多くの学校行事を各委員会の生徒たちが成功させたこと、そしてその努力の過程を多くの人が間近で見守ってきたことによるものと考えられます。今後も、生徒一人ひとりが活躍できる場を提供し、生徒会活動が円滑に行われるよう、引き続き支援を行っていきたく考えています。

8 自分にとって、有意義な学校行事がある。(学校行事)



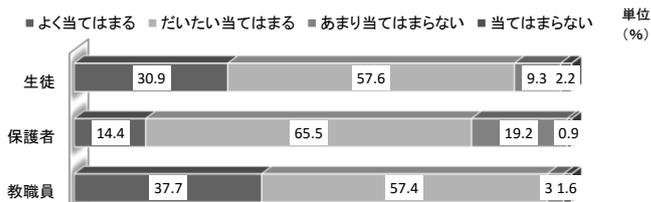
【分析と対策】
 コロナ禍も明け、学校行事の内容もコロナ禍前にそっくり戻すのではなく、生徒の実態やその時の情勢に合わせた改善に取り組んでいます。そのような中、ほとんどの行事が実施可能になり、好意的な数値が大きく上昇した昨年度とほぼ同程度の結果を得られました。今後とも、生徒にとってより有意義な行事となるよう、行事内容の改善、充実を図っていきます。

9 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。(特色ある学校づくり)



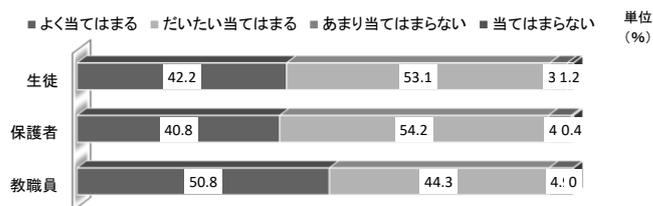
【分析と対策】
 昨年度と同様に、「よく〜」「だいたい〜」の合計が9割程度となり、好意的な評価を受けました。本校では総合的な探究の時間(T-time)において、富谷市と連携し、地域課題をテーマにした課題研究に取り組んでいます。この課題研究の活動を契機に、自治体等主催のまちづくりに関するワークショップに参加する生徒が増えています。生徒自身が社会の形成者としての意識を高め、学校内外に活躍の場を広げています。また、今年度は創立30周年記念事業が行われ、本校の伝統を感じる事が多い1年となりました。今後も地域と共にある学校づくりを一層推進していきます。

10 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。(防災教育)



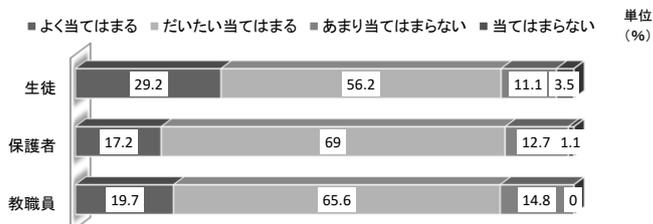
【分析と対策】
 保護者向けにeメッセージ等を活用し、訓練前に災害・非常時の対応について家庭で都度確認することで、昨年度数値が大きく改善した項目です。今年度は、生徒安否確認メールの返信率向上のための指導充実等の取り組みを実施した結果、今年度も「よく〜」「だいたい〜」について、昨年度比生徒は1.8ポイント、保護者は5.7ポイントの増加であり、さらに周知が進んでいると考えます。また、情勢に鑑み、不審者侵入等の不測の事態への対応を教職員・生徒で確認し、万が一の状況に備えています。

11 保護者等に対して、学校便り(一斉メールや学年便り、学校ホームページ)などによって、学校の情報は適切に伝えられている。(開かれた学校づくり)



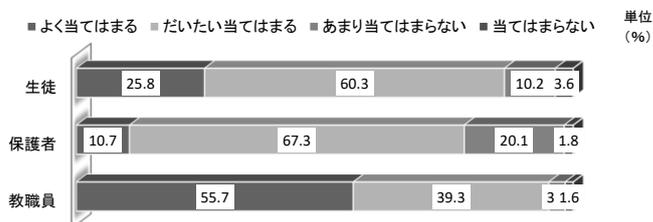
【分析と対策】
 生徒・保護者・教職員ともに95%を超える「よく〜」「だいたい〜」の評価であり、中でも「よく〜」という評価は保護者と教職員で昨年比10%ほど増加しました。eメッセージを利用した学年便りの発行は今年度特に活発に行われており、保護者にしっかりと情報が伝えられたことを実感として得られる結果となりました。今後も学校HPの充実を図るとともに、校内におけるICT環境を整え、より適切に情報発信が行えるよう、さらなる研修や実践を積んでいきたいと考えます。

12 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。(施設整備)



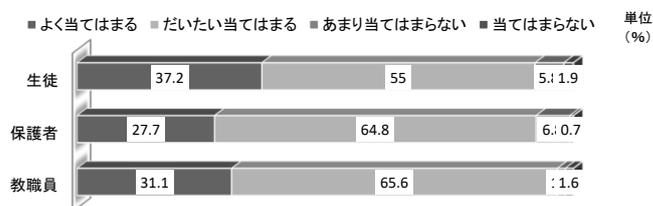
【分析と対策】
 「よく〜」「だいたい〜」と回答いただいた割合は、昨年度比で、生徒は0.6ポイント増の85.4%、保護者は2ポイント減の86.2%となりました。直近3か年平均(全体)は83%となっています。今年度は、トイレ洋式化工事(2年目)や暖房ボイラー修繕工事等を行いました。今後も、エレベーター設置工事の実施や、施設・設備の経年劣化に対応した修繕等を行いながら、生徒の皆さんが安全で安心できる学校生活を送れるよう環境整備に取り組んでいきます。

13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。(いじめ問題)



【分析と対策】
 「よく〜」「だいたい〜」は、生徒は2.6ポイント、保護者は7.9ポイント、昨年度から増加しています。今年度からアンケート調査の実施について、eメッセージにより保護者に周知していることや家庭に持ち帰っての記入にしたことが要因と考えられます。また、教職員の「よく〜」が昨年度比22.4ポイントの増加となっており、いじめの早期発見への意識向上が見られます。今後も、アンケート調査や生徒・保護者からの訴え、教職員による発見や教育相談等、家庭や地域、関係機関と連携し、いじめに気付くネットワークを維持していくことで、学校だけでは見逃されがちないじめの早期発見を目指します。また、いわゆる「ネットいじめ」につながらないよう、情報モラル教育などを通して未然防止の取り組みをしていきます。

14 自分にとって、学校生活は充実している。(総合満足度)



【分析と対策】
 昨年度に引き続き、「よく〜」「だいたい〜」の合計の数値が生徒・保護者・教職員それぞれで90%を超える非常に高い評価となりました。この背景には、本校が生徒一人ひとりの個性を尊重し、それぞれのペースで過ごすことのできる雰囲気大切にしていることが挙げられます。また、他者を認めることのできる生徒が多く、互いに支え合いながら学校生活を送る姿勢が評価に繋がっていると考えられます。これらは日常の学校生活だけでなく、体育大会や文化祭といった行事での協力や成果にも表れています。今後もこの良好な環境を維持し、生徒が自分らしく成長できる学校づくりを進めていきたいと考えています。